

福建投稿の依頼をうけたが、テーマがなかなか固まらない。思いついて書き、これは不
適当だなとやめる。これで4稿目である。結果として、現在席を置いている係の業務に関
する内容となった。

「通学路の安全点検」を実施してみて感じたことを書きたいと思う。

この安全点検は今年度初頭に起こったいたましい事故を契機に、小学校等の通学路にお
ける危険箇所を洗い出し、その早急な解消を図っていこうと実施されたものである。手法
としては①「各小学校が通学路の危険箇所をピックアップし、学校関係者（各校の教諭・
教育委員会・PTA）、道路管理者（県・市町村）、警察が合同で現場確認、意見交換を行い、
危険解消のための対策法を提案する」②「その後の対策の実施状況等を定期的に情報交換
する」という形で行われた。

結果、対策が必要な箇所が全国で7万箇所以上あることが判明し、現在も対策を継続実
施中である。

以下、実際にこの安全点検に携わり、教育関係者からの生の声や警察意見を受けて気付
いた点について述べたい。まずは「危険性の認識のずれ」の存在についてである。守るべ
き対象が小学校児童ということもあり、その挙動や体の大きさ等、我々とは大きく異なる。
ここで当事者（学校関係者）との認識のずれがあった。街の中でどこにでもあるような状
況（建物等による死角の問題や、停止線の微妙な位置等）であっても、通学路においては
特に対策が必要な箇所として選ばれていた。また「発想の凝り固まり」についても自覚す
ることになった。これは誰が見ても危険であるものの用地取得して歩道を作ることでは
対応できないと考えていた箇所等、執れる対策はもうないのではないかというものについ
て、安全性向上のために早期にできるなにがしかの対策が出されたことによる。

次に安全点検の実施のなされ方に関することである。この安全点検は普段行っている業
務に比べテンポよく行われた印象が強い。理由としては教育部門・道路管理者・警察が、
多分に上位機関からの強制であったとしても問題意識・タイムスケジュールを共有のうえ
で協調し、プロジェクト的な形になったことが考えられる。またこのチームの中に経験の
豊富な警察官が入っていることも大きかった。事故事例・危険箇所のパターンを熟知した
方からの意見・提案、また対策方法の妥当性にお墨付きをもらうことなどで、方向性決定
に向けた牽引役となってもらった。さらに危険箇所についてとりあえずできることをやろ
うという流れを後押ししてくれる風潮も心強かった。なかなかこのような好条件は整わ
ないと思うが、良いパターンとして覚えておきたい。

また考えていくべき問題点もあった。現在、要望が出た箇所から事業箇所を選択するこ

とが多いのだが、要望がでていない箇所についても、危険な箇所は多くあった。先に延べた当事者ごとの視点によるニーズをくみ取る手法に工夫が必要であると感じた。また通学路の歩道の整備率を成果指標に掲げていながら、危険個所の解消という視点に欠けていること、これまで学校からの情報収集が行われていなかったことなどはお恥ずかしいかぎりであった。

点検の結果をうけた対策工事（担当地区分、早急に可能なもの）の実施は年度内にほぼ完了する見込みである。今後、一部の対策未実施の箇所について対応していくことはもちろんであるが、安全性は高めたものの根本解決に至っていない箇所が多数あるという意識を持ち続け、また継承していかななくてはならない。交通弱者である児童は最優先で守られるべきであり、安心安全が叫ばれるなかで、この動きが一過性の帳面消しのものにならないよう、また合同点検の際の連携が継続できるよう、中長期的なフォローが行われる必要を感じている。